

◎城端地域 複合交流施設 新設イメージ・相関図

要るな 欲しいな 創りたいな

【現状】

【再編統合後】

○継続活用、×取り壊し

× 城端庁舎

- 行政センター (→新)
- 土地改良区 (→他)
- 曳山修理工房 (→他)

× 城端図書館

- 図書館機能 (→新)
- 会議室 (→他 or 新)
- 閲覧室 (→他 or 新)

× 美山荘

- 社協支所 (→新)
- 会議室 (→他 or 新)
- 和室 (→他 or 新)
- 公衆浴場 (→廃止)

× 保健センター

- 現在 検診時のみ使用
南砺中央病院に
機能移転

× 起業家支援センター

- 桜クリエに機能集約

× 勤労青少年ホーム

- 城端公民館
- 城端地区自治振興会
(→現商工会館へ)

- 会議室 (→他 or 新)
- 貸室 (→他 or 新)

駐車場や公園など
跡地の活用を検討

○ 旧共同福祉施設(現商工会館)

- 商工会 (→新)
- 小ホール
- 会議室

住民が活発に交流できる拠点づくり

◎城端型「まちのえき」

世代や地域をこえて集い交流するにぎわい拠点

地元の人も観光客や応援市民も老若男女、市・県・国内外問わず、誰もが気軽に集える

「城端が好き」で「人と話すのが好き」な「まちのコンシェルジュ」が担う (P5上)

総合案内、休憩所、連携交流拠点、人(市民、観光客、応援市民)と公共交通(世界遺産バス、地鉄バス、なんバス、デマンドバス (P4上)等)のハブ拠点、レンタサイクル発着所 (P5下)

〔カフェスペース・おみやげ販売・そば道場 など〕 (P5下)
持続可能な「かせげる拠点」として

〔図書館〕 (P3)

- 司書常駐(中央図書館と連携強化)
- 読み聞かせスペース
- 広めの学習スペース
- 蔵書少なめ(城端関連書籍の所蔵は確保する)

〔オープンスペース・会議室・貸室〕

子ども、子育て世代、お年寄りなど多世代が気軽に集える場所 (P3~4上)
「遊び・学び・楽しみ」をサポート
伝統・祭礼行事の伝承・継承や子育て支援などに対応

〔共有事務スペース〕 (P3)

行政センター、商工会、社会福祉協議会、観光協会など
(事務スペース + 各資材倉庫・書庫)

〔多目的屋外スペース〕 (P3中, P4上)

ペタンクなどの軽スポーツや軽トラ市など多用途に使えるスペース

～コンセプト～ (P3下)

- ハコではなくヒトで解決したい
- 新築建物は大きさを求めない

〈メモ〉

- 現庁舎規模の避難所対応は考えられない(別施設対応?)

既存施設とドッキング
(連結・連携、回遊性)

○ じょうはな座

- 大ホール
- ロビー
- 会議室
- 練習室

○ 旧共同福祉施設

- 城端公民館
- 城端地域づくり協議会
(城端地区自治振興会)
- 小ホール
- 会議室 など

城端小学校

【特別教室棟】

- 調理室
- 小ホール
- 和室

貸室利用の受け皿として連携利用を検討

その他

- クリエイタープラザ 桜クリエ
- JA 会館
- 南砺市観光協会(城端駅)
- 城端別院善徳寺 など

既存施設の有効活用

地域の新しいランドマーク

収集・集約 発信

〔情報を集めて伝える〕

(P4下~)

- 商店街のお店、祭り・イベント、子育て支援、悩み相談、サークル・グループ活動、求人など地域内の多様な情報の収集、集約、発信
- 情報収集にはサポーター制度やLINE@等のSNS、「なんとポイント」などを連携・活用
- 発信は、コンシェルジュから直接(Face to Face)で手渡す・伝える

連携協力
利用調整

1. 城端地域の現状と課題

◎城端地域の現状

[強み]

- ユネスコ無形文化遺産の城端曳山祭
- 曳山祭とむぎや祭り、大きな二つの祭行事
- ハブ化した駅があり、拠点性もある地域
- 三世代交流が行われている
- 十分に暮らしやすい
- 風情ある町並み、越中の小京都
- 立派なもの、すばらしい特性がいたるところに残っている

[弱み]

- ▽ 人口減少、少子高齢化による担い手不足
- ▽ 空き家・空き店舗の増加
- ▽ 老朽化で整理検討が必要な施設が集積している（図書館、勤労青少年ホーム、起業家支援センター、旧城端共同福祉施設、保健センター、美山荘）
- ▽ 酒席を含めた会議の場の不足

◎城端地域の課題

- ◇ 庁舎が無くなってもまちがさびれないような新たな拠点（複合交流施設）の設置
- ◇ 老朽化で整理される施設機能の維持
- ◇ 子育て世代から高齢者まで、誰もが気軽に集えるスペースの確保
- ◇ 新たな担い手が入ってきやすい環境づくり
- ◇ 今後の祭のあり方、継承の検討
- ◇ 空き家、空き店舗情報の収集、発信、有効利用
- ◇ 各団体等が活動に使える供用スペース（会議室等）の確保
- ◇ 催事利用可能な駐車場の整備

2. 城端地域が目指す「まちづくりの方向性」

複合交流施設新設による地域住民が活発に活動できる拠点づくり

複合交流施設新設で目指す方向性

- ① 世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり
- ② 地域の情報を共有し語り合える仕組みづくり
- ③ やりたいことが実践できて活気あふれるにぎわいづくり

※各方向性は全てつながっていて相互に補完しあう関係である。

3. 複合交流施設新設の概要

<目的>

- ・ 公共施設再編計画の要請を踏まえ、庁舎統合によって空いた庁舎建物を含め、老朽化した地域内6施設のスクラップ&ビルドを1カ所で担うもの
- ・ 施設を複合化することで、図書館機能を中心に地域住民や観光客など誰もが気軽に集える利用しやすい建物を目指す
- ・ 子育て世代から高齢者までが集う、にぎわいの拠点であるための仕掛け・システム等を検討する

< 近隣施設・再編統合施設との関連 >

< 城端庁舎 >

取り壊し後、複合交流施設として新築（規模を縮小）

- ・行政センター窓口機能 → 複合交流施設へ
- ・土地改良区、曳山修理工房（曳山保存会） → 他施設へ（要調整検討）

< 城端図書館 >、< 美山荘 >、< 保健センター >、< 起業家支援センター >

複合交流施設へ一部機能を移転後、取り壊し

< 勤労青少年ホーム >

他施設へ機能を移転後、取り壊し

- ・城端公民館、城端地区自治振興会事務局、会議室 → 旧共同福祉施設へ
- ※各種教室・サークル等の受け皿として、小学校特別教室棟の利活用を検討
（大型調理室、和室、小ホール等があり多用途に利用可能）

< 旧共同福祉施設（商工会） >

商工会の複合交流施設への移転後、「勤労青少年ホーム」の城端公民館、城端地域づくり協議会（城端地区自治振興会）事務局機能を移転

< 城端伝統芸能会館「じょうはな座」 >

複合交流施設とドッキング（渡り廊下で連結）して一体化、回遊性を持たせる

※各施設取り壊し後の跡地活用については要検討

（例：図書館・勤労青少年ホームは水月公園・天満宮も含めて駐車場や公園等に整備など）

< 施設機能＝どのような機能が入るのか？ >

< まちのえき >

- ・地域住民や観光客が世代を超えて集い、交流する、にぎわい創出拠点
- ・総合案内、休憩所、連携交流拠点、カフェスペース、おみやげ販売、そば道場、人（市民、観光客、応援市民など）と公共交通（世界遺産バス、地鉄バス、デマンドバス、なんバスなど）のハブ拠点、レンタサイクル発着所など

< 図書館 >

- ・司書常駐、中央図書館との連携を強化し、城端地域関連書籍等の所蔵は確保、蔵書は少なめでも学習スペースを充実、読み聞かせに対応

< 社会福祉協議会 >

- ・美山荘機能、相談、取り次ぎ対応（※美山荘の公衆浴場機能は移転しない）

< オープンスペース・会議室・貸室 >

- ・高齢者や子育て世代が集い多用途に使える会議室や貸室スペース
（※パーティション等で用途に合わせて広さが変えられるオープンスペース）
- ・子どもの「遊び・学び・楽しみ」を高齢者や地域がサポートする多世代交流の拠点機能
- ・隣接する城端伝統芸能会館「じょうはな座」と連携した一体的な利活用

< 共有事務スペース >

- ・行政センター
- ・商工会城端支部、社会福祉協議会城端支所、観光協会城端支部等
（各機関、団体等のバックヤード（資材倉庫スペース）を含む）

< 屋外スペース >

- ・ペタンクコート（5m×15m）や軽トラ市にも使える多目的スペース

< 施設の運営方法等 >

《 課題・問題点等 》

- ・有利な財源（起債・補助金等）の確保
- ・運営母体（主体）の選定および調整
- ・運営組織（母体・中核）はだれが担うのか？受け手の検討
→ 商工会や観光協会の城端支部、新たな管理団体の検討（各組織の連携・共同が大切）
- ・具体的な施設のイメージ
- ・施設の大きさは求めない ⇒ 最低限の大きさ
ハコではなくヒトで地域課題を解決したい
- ・災害発生時の避難場所（現庁舎規模＝大規模）としての対応は考えない
（考えられない）
- ・地域内の他施設も積極的に連携して活用
（サクラクリエ、城端別院善徳寺、JA会館、城端小学校など）

4. 複合交流施設新設で目指す方向性の実現に向けた具体的な取組

①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり

<目指すべき姿>

- ・地域住民や観光客が世代を超えて集い、交流し、にぎわいを創出する施設
- ・昔の遊び、むぎや、庵唄など、学校では教えてもらえないことを学び、体験できる
- ・観光客、高齢者、親世代、子どもたちが互いに学び、助け合い、交流を深める場所づくり

<方策・具体的な取組>

- 地域住民や観光客が世代を超えて集い、交流し、にぎわいを創出
 - ・情報の集約と発信：地域内の情報を収集・保管し、求めている人に適切に提供する
 - ・「まちのえき」として土日祝日も対応可能な、地域の総合案内機能を有する拠点施設
 - ・まちの魅力を伝える「まちのコンシェルジュ」を配置
（まちのコンシェルジュ：情報を集め、おもてなしの心をもってそれを発信する人）
 - ・ペタンク（1コート15m×5mを1～2面）や軽トラ市などに使える多目的スペース
- 図書館機能を中心としたオープンで多用途に使える拠点施設の整備
 - ・蔵書は少なめでも可、司書が常駐し、学習スペース等を充実させた図書館機能整備
 - ・高齢者が語り部となり、学校では教えてもらえないことや体験を教える・伝える
 - ・子育て世代（保育園児～中学生の親）の悩み相談等への対応
- フリーWi-Fiなどの整備（子どもや親世代が集う仕掛け）
 - ・移動図書館、e-スポーツ、囲碁サロン、体操・ヨガ教室などで多世代交流を促進
 - ・カフェ、軽食喫茶（弁当持参も可）→気軽に立ち寄れる居場所づくり

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・まちのコンシェルジュを担う人材の選定・育成・養成
- ・子育て世代のニーズ把握、元気な高齢者のネットワークづくり
- ・むぎや踊りや庵唄など伝統的な技術を伝承するための仕組み・仕掛けの検討

<この取組に必要な支援（行政に望むこと）>

- ・Wi-Fi環境の整備、多用途に利用可能なオープンスペースの確保

<この取組によって解決できる課題>

- ・効果的な情報発信と多世代交流の促進によるにぎわい創出の好循環
- ・伝統芸能の伝承と地元愛醸成の両立による地域の魅力増進

《課題・問題点等》

- ・情報の収集と発信に係る精度の向上と的確なニーズの把握
- ・まちのコンシェルジュの育成・養成システムの検討実践
- ・魅力的で誰もが集えて学べる拠点としての図書館機能とは？

②地域の情報を共有し語り合える仕組みづくり

<目指すべき姿>

- ・居心地の良い情報と人の発着所
- ・地域や地元の情報、井戸端会議的な寄り合いから地域課題を発見・解決

<方策・具体的な取組>

- 施設をうまく活用するための“しくみ”を考える
「知ってもらおう・使ってもらおう」「情報を集める・伝える」ための仕組みの検討・実践で
「居心地の良い居場所づくり」
 - ・商店街の店舗、祭り・イベント、子育て・悩み相談、サークル・グループ活動、求人など地域内の情報を収集し、情報を必要としている方（地域住民や観光客）に適切に提供する
 - ・「地域の人に知ってもらおう・使ってもらおう」ための仕組み
→ 広告宣伝、オープニング・定期イベント、案内窓口、利用者斡旋
 - ・「情報を集める・伝える」ための仕組み

- 情報収集発信サポーターシステム、ネット窓口、掲示板（電子掲示板・SNS等）「なんとポイント」と連携し情報提供者にポイントが貯まるなどの仕掛け
- ・「居心地の良い居場所づくり」
 - 清潔/ほどよい雑踏・変化・普遍/季節感/関心の高いサービス・情報・施設(図書)/お得で便利(Wi-Fi、ATM、コピー、充電、PC、自販機など)
- ・オンデマンドバス、図書館システム、公民館機能、住民票等の発行などの利便性の高い機能と安心して遊べる場所としての機能の提供・継続管理
- ・担い手は「城端が好き」で「人と話すのが好き」な人（交替で複数人常駐、仕事しながら）

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・情報収集&提供、施設の利活用、イベント運営など
- ・「居心地の良い居場所」、「来たくなる場所」の雰囲気づくり

<この取組に必要な支援（行政に望むこと）>

- ・財政的支援（人材育成・雇用確保・ソフト面運用）
- ・バックアップ（関係各機関との連絡調整など）
- ・ネットワーク連携、構築（オンデマンドバス、Wi-Fi環境など）

<この取組によって解決できる課題>

- ・新たな地域活動拠点で「まちの魅力」の共有・発信や、空き家・空き店舗の情報共有による有効利用ができる仕組みの構築で活力増進

《課題・問題点等》

- ・情報収集テンプレートなど誰にも分かりやすく使いやすいシステムの構築
- ・情報発信ツールの選別、継続的な運用、担い手の確保や育成 など

③ やりたいことを実践して活気とにぎわいを創出

<目指すべき姿>

- ・子どもから高齢者までが集う魅力ある場所 → 人との出逢い
住民には当たり前の日常が観光客には非日常。そう思わせるのは「人・出逢い・交流」
- ・まちの人たちが元気になる施設・場所
- ・「ダンボでヨスマな(博識で面倒見の良い)人」「まちのために何かしたいと思っている人」がプレーヤーとして能力を発揮できる場所

<方策・具体的な取組>

○地域のランドマーク 城端型「まちのえき」

- ・多様な機能が集約された地域拠点
 - 〈総合案内〉 観光、行政、各種情報の集積・管理・提供・発信
 - 〈交流拠点〉 まちの人、世代間、市内他地域、観光客、外国人、応援市民の交流促進
 - 〈休憩所〉 カフェ、軽トラ市 など
 - 〈連携拠点〉 地域間ネットワーク、商店街の連携、公共交通待合所、レンタサイクルヒッチハイクステーション
- ・持続可能な「かせげる拠点」として収益を上げる
カフェ・そば道場・土産物販売所・貸部屋（会合、教室、グループ活動、マルシェ等）

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・まちのコンシェルジュ、観光ガイド、軽トラ市実施に係る人材の選定・確保・育成
- ・文化の達人、ダンボでヨスマな人の選定

<この取組に必要な支援（行政に望むこと）>

- ・地域間ネットワークの連携調整（商工会・観光協会などの関係団体など）

<この取組によって解決できる課題>

- ・世代間交流の促進でアイデアとヒトが集まるにぎわい拠点づくり

《課題・問題点等》

- ・カフェ、そば道場、軽トラ市等の担い手確保、持続的な収益の確保
- ・まちのランドマークとしての魅力づけ など